

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業ていだのふぁ		
○保護者評価実施期間	令和6年 10月 15日		令和6年 11月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 3名	(回答者数) 2名	
○従業者評価実施期間	令和6年 11月 14日		令和6年 12月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 1名	(回答者数) 1名	
○訪問先施設評価実施期間	令和6年 10月 15日		令和6年 11月 15日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数) 2カ所	(回答者数) 1カ所	
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 2月 18日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの特性を理解し、子どもと保護者のニーズや課題を分析し、保育所等訪問支援計画(個別支援計画)が作成されている	子どもと保護者のニーズや課題を理解して、保育所等訪問支援計画に反映している	事業所と訪問先施設、保護者の間で情報共有をしながら保育所等訪問支援計画を作成する
2	必要に応じて子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの達の状況、課題について共通理解ができている	事業所や訪問先施設、保護者の間で子どもの様子を情報共有することができている	事業所と訪問先施設、保護者の間で子どもの日々の様子を伝え合い、子どもの理解を深める
3	訪問先施設からの相談に適切に応じ、信頼関係を築きながら専門的な助言を行っている	訪問先施設と事業所の間で情報共有することで、子どもの特性の理解や困り感の解決に生かしている	訪問先施設と事業所で子どもの様子を伝え合い、日々の子どもの支援に生かしていく

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	専門家や専門機関等に助言を受けたり、職員が研修へ参加する機会がない	職員が研修に参加したり、専門家や専門機関等の助言を受けられる機会が設定されていない	職員が積極的に研修に参加できるよう、事業所で働きかけていく
2	通信やHP、SNS等を活用して、活動概要や連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信できていない	職員に保育所等訪問支援についての理解が深まっていない	職員が保育所等訪問支援への理解を深める 保護者に保育所等訪問支援について周知する
3	利用希望者に対して、職員の配置数が少ない	保育所等訪問支援に携わる職員が少ない	限られた職員だけでなく、様々な職員が保育所等訪問支援に携わっていく